

福岡中央郵便局の発足から150年の歩み

田畑 裕司

福岡中央郵便局は、明治4年（1871）12月20日に福岡郵便取扱所として開設され、令和3年（2021）で150年を迎えました。福岡局の150年の歩みについて、郵便物を中心に、消印の変遷、郵便の種別、福岡にゆかりのある差出人や受取人、主要な行事等を示したコレクションです。作品は、今年のスタンプショウはかたで5フレームを特別展示する予定です。コレクション拝見で持参するのは、最初の2フレームのみです。第1フレームは丸一型日付印（～明治38年）まで、第2フレームは楕型日付印（明治39年～）のうち戦前（昭和20年）までです。それ以降は作成中ですが、第3フレームは戦前（昭和20年）までの機械印と特印、第4フレームは戦後の福岡郵便局の時代、第5フレームは福岡中央郵便局の時代となります。

先ずは、福岡中央郵便局の変遷を御覧ください。

表 福岡中央郵便局の変遷

区分	年月日	内容
I 福岡郵便取扱所	明治4年12月20日	開設、筑前国早良郡福岡簀子町27番地
II 福岡二等郵便役所	明治6年4月1日	昇格
III 福岡二等郵便局	明治8年1月1日	名称変更、明治13年に橋口町へ移転 (明治16年7月～24年3月空白期間)
IV 福岡郵便電信局	明治24年4月1日	名称変更、福岡市橋口町に移転
V 福岡郵便局	明治36年3月	官命変更、電話局と合併 その後天神→福岡大空襲により局舎全焼→仮庁舎→天神町と移転
VI 福岡中央郵便局	昭和34年6月15日	名称変更、現庁舎に移転

表の区分の中で、I 福岡郵便取扱所からIII 福岡二等郵便局の時代までの郵便物は、余り残されていません。そして、明治16年に博多局が福岡地区に移転したため、それから明治24年3月まで福岡局の空白期間になります。郵便物が比較的多く見られるようになるのは、復活後のIV 福岡郵便電信局の時代、つまり、丸一型日付印が使用されるようになってからです。丸一型日付印は、印顆の文字の書体や縁の太さにバラエティがあるので、それを使用年ごとにA、B、Cと区分しています。

楕型日付印は、印顆の文字の書体には変化がほとんどなくなり、C欄の時刻表示が、X2a、Y2及びZの3タイプに分けられ、戦争で金属が不足すると3星、福岡県の表示に変わり、終戦に至ります。

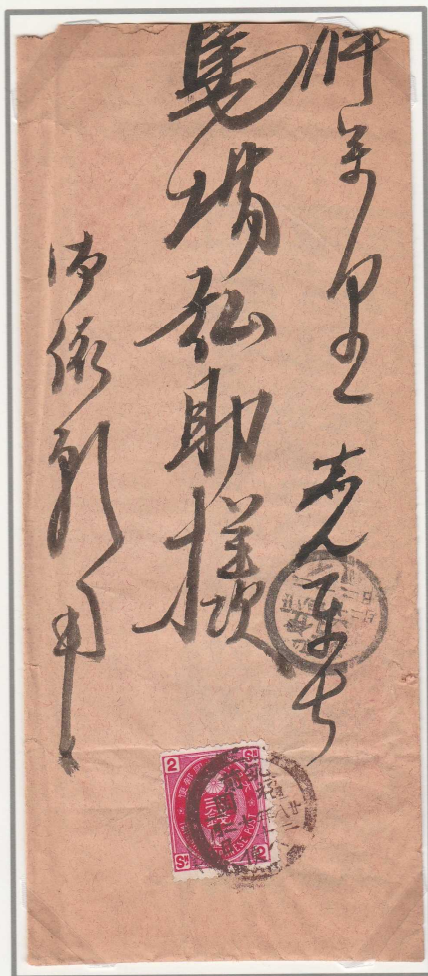
IV 福岡郵便電信局

明治28・29年

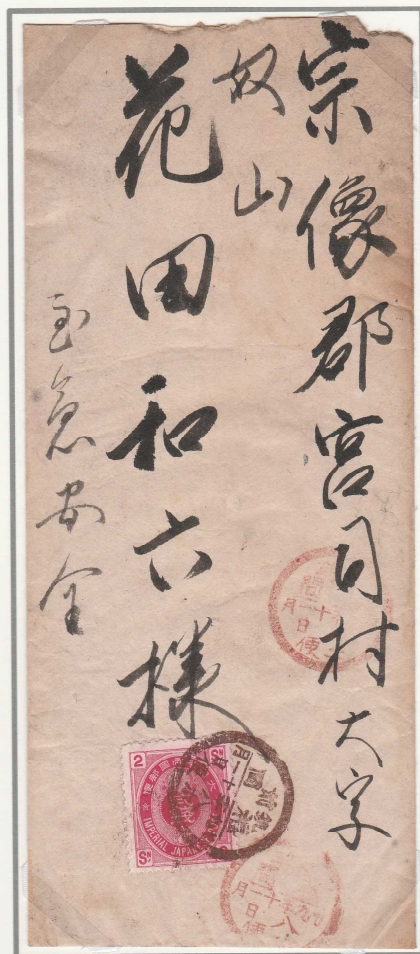
丸一型日付印（褐色）便号入り

28年Bタイプ（太枠リング）

29年Aタイプ（傾斜文字）



筑前・福岡 明治28年12月21日ハ便
→肥前・伊万里 明治28年12月22日イ便



筑前・福岡 明治29年11月8日ホ便
→筑前・福岡 明治29年11月8日ニ便

料金：封書2銭

（1リーフ目）丸一型日付印（茶印）のリーフ。様々なタイプに分けられる。左側は、印願の縁が最も太い枠のタイプ。右側は、局名の文字が少し傾斜しているタイプ。

V 福岡郵便局(戦前)

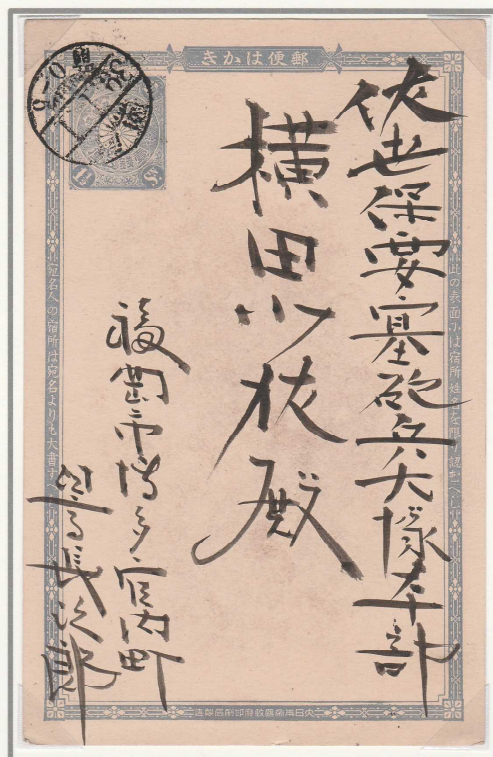
明治39年

楕型日付印 時刻入り・X2a型

楕型日付印は、明治39年1月1日から全国の1・2等局で使用が開始された。福岡郵便局における戦前の時刻表示は、X2a、Y2及びZの3タイプに分けられる。

初日使用例 (X2a型)

タイプ	X2a型	Y2型	Z型
告示上の初日	明治39年 1月1日	大正2年 4月1日	昭和5年 12月1日
時刻表示	前0-5	前0-8	前0-8
	前5-7		
	前7-9	前8-10	前8-12
	前9-11	前10-12	
	前11-后1		
	后1-3	后0-2	后0-4
	后3-5	后2-4	
	后5-7	后4-6	后4-8
	后7-9	后6-8	
	后9-11	后8-10	后8-12
	后11-12	后10-12	



福岡 明治39年1月1日前0-5

(第2リーフ) 楕型日付印のトップページで、左側に3つのタイプの時刻表示区分を示した。それにより使用年代が分かる。右側の葉書は初日使用例。

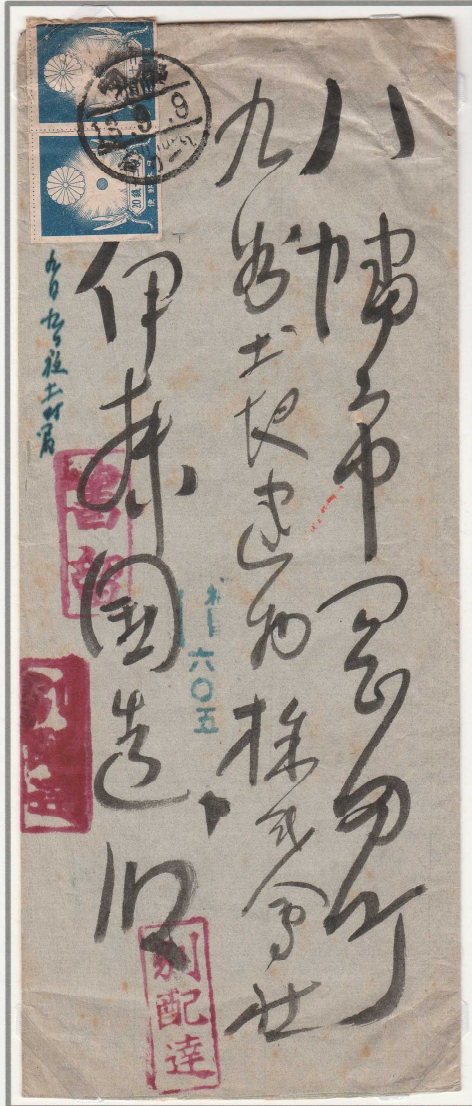
V 福岡郵便局(戦前)

大正5・13年

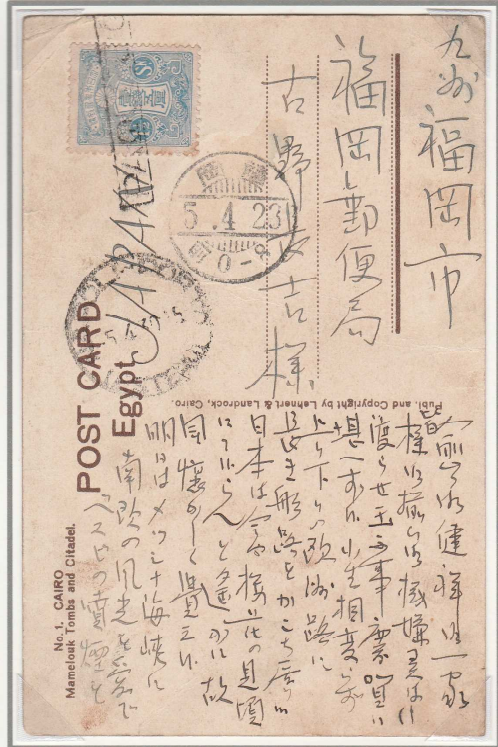
楯型日付印 時刻入り・Y2型

書留・別配達
時刻表示 后0-2

バックボー
時刻表示 前9-11



福岡 大正13年9月9日 后0-2



船内投函→PAQUEBOT+ナポリ 1930年4月5日
→福岡 昭和5年4月23日 前0-8

料金: 葉書1.5銭(日本船の船内郵便局のないポスト投函されたもので、日本国内と同一料金)

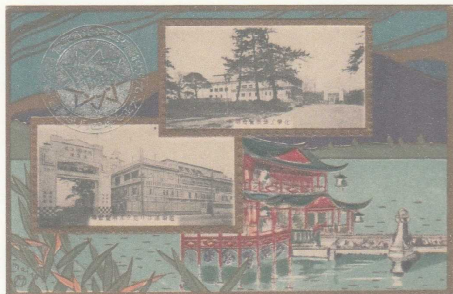
料金: 封書3銭+書留7銭+別配達(陸上2里以内)30銭、合計40銭

(第3リーフ) 左側は、約50年前に平尾勉氏から譲っていただいた思い出のエンタイア。震災20銭切手のペア貼の書留・別配達という貴重品。右側は、船内におけるバックボー使用で、あて先も福岡郵便局の職員あて。

V 福岡郵便局(戦前)

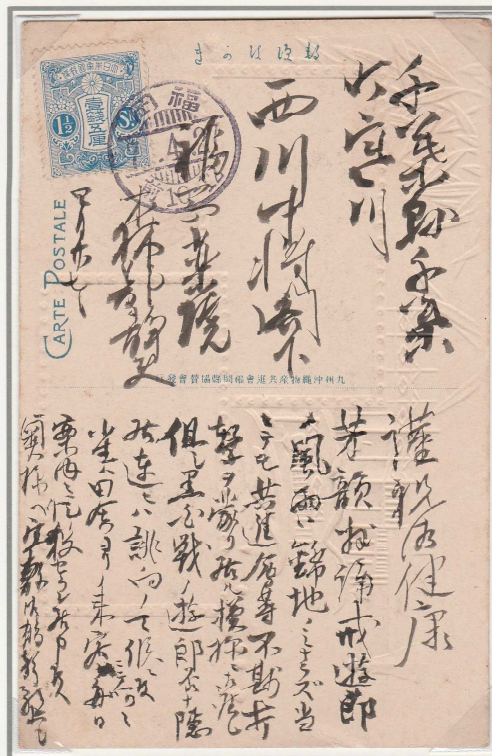
色変わり記念印
(九州沖縄物産共進会)

青印 時刻表示 前10-12



裏面:60%縮小

福岡 大正7年4月27日前10-12

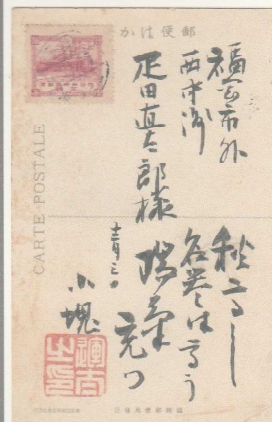


新庁舎への移転 大正10年11月



念紀契新周便郵岡福

福岡郵便局発行 記念絵葉書



裏面:50%縮小

(第4リーフ) 上は、九州沖縄物産共進会の青色の色変わり記念印。特印にまでは至らない行事に色変わり印が使用された。下は今年1月の例会に矢羽田教昭氏が、こんな物があるよと持ってきてくれた福岡郵便局発行の局舎新築を記念する絵葉書。絵葉書の図案を作成した書家が自ら発送したと思われるもの。

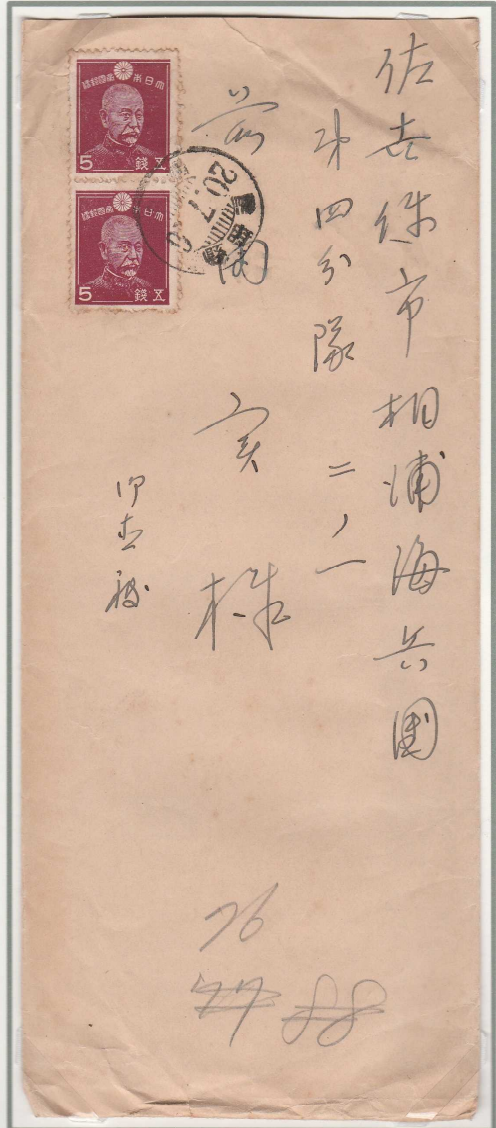
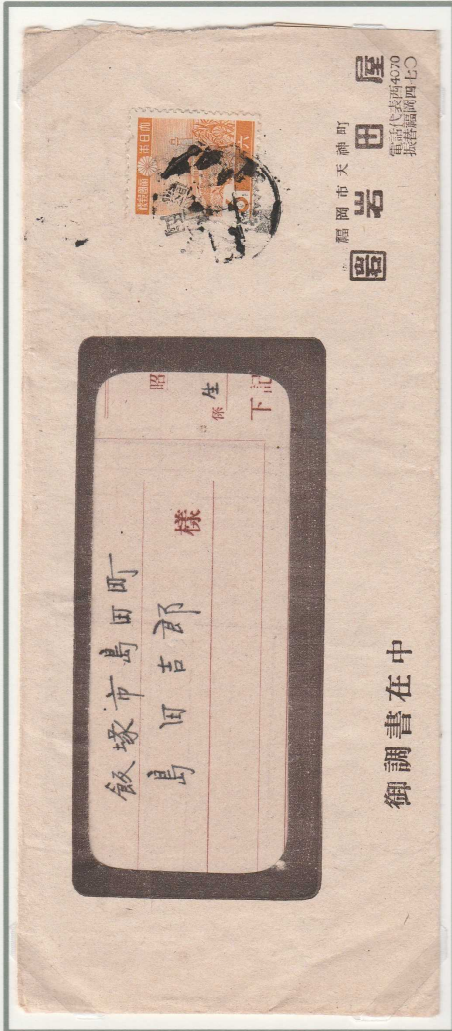
V 福岡郵便局(戦前)

昭和19・20年

楕型日付印 都道府県

第4種郵便

A欄とC欄が逆転 (エラー印)



(第5リーフ) 戦争末期の時刻表示がなく「福岡県」と表示された楕型印。左側は、岩田屋からの請求書の第4種郵便で、中身は請求書であるが、封筒には「御調書御中」とある。右側は、A欄には局名が入るべきであるが「福岡県」が入り、C欄には局名の「福岡」が表示されたエラー印。